

特定非営利活動法人 日本免疫学会  
平成 25 年度前期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award  
研究発表報告書

申請者氏名	夏秋洋平	会員番号	0032681
申請者の所属・職名	京都大学皮膚科 研究研究員		
出席会議名	International Investigative Dermatology (IID)		
発表論文タイトル	Identification of inducible lymphoid crusters : iSALT, a key site to elicit contact hypersensitivity responses		

実子結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠に有難うございました。岸本忠光先生をはじめ、ご選考いただいた日本免疫学会の先生方に厚く御礼申し上げます。また、本研究につきご指導いただいた椛島健治先生ならびに宮地良樹先生、本賞へ御推薦いただきました渡邊武先生、実験にご協力いただいた多くの先生方に心より感謝申し上げます。

今回私は、2013年5月8日から11日にエジンバラにて開催された国際研究皮膚科学会(IID)において、接触皮膚炎惹起相における皮膚内抗原提示について報告を行いました。大変光栄なことにプレナリーセッションにおける発表の機会を与えていただき、活発な討論を通して今後の研究の発展につながる多くの助言を得られたと同時に、我々が今後解決すべき課題を見出すことができ、大変有意義な発表となりました。また、ポスターセッションにおいては、各研究分野の研究者の先生方と議論できたことで大きな刺激を受けたと同時に、自身の語学力不足を痛感させられました。

アトピー性皮膚炎や接触皮膚炎などの皮膚炎症惹起のメカニズム解明のアプローチとして、これまではリンパ節内における抗原提示が主な研究対象とされてきましたが、近年では末梢組織における抗原提示の重要性に注目が集まってきています。近年、二光子励起顕微鏡を用いたライブイメージングが可能となり、我々は炎症惹起に関与する種々の免疫細胞の動態解析を行うことで、炎症下の皮膚に T 細胞が抗原非特異的に集積し活発に動き回っていること、また特異抗原の存在下では真皮樹状細胞の周囲に T 細胞が長時間留まることを報告し、皮膚が T 細胞の活性化の場として利用されていることを可視化することで、皮膚ならびに皮膚樹状細胞が T 細胞の機能を調整する役割をもつ可能性を示すことができました。

また本会議中に、同じくライブイメージングの手法を用いて皮膚内免疫細胞の動態解析を行っている Centenary Institute of Cancer Medicine & Cell Biology, Dermatology at the University of Sydney の Wolfgang Weninger 博士と議論する機会を得られたことは大変貴重な経験でした。

今回の受賞を励みとし、また本学会中に得られた知見を活かし、今後の更なる研究の推進に尽力したいと思います。この度は貴重な機会を与えていただき誠に有難うございました。□